

# 令和四年 秋の課題作文・読書感想文

## 〈塾長講評〉

今回も小学生は読書感想文、中学生は課題作文に取り組んでもらいました。中学生の課題は、日本の小中学校に飛び級制度を導入することについて、表やグラフを読み取った上で自分自身の意見を述べるというものでした。資料読み取りでは、その情報を引用して読み取ったことを的確に言語化することが必要です。今回、「大学の『一割』が飛び入学を導入している」や『ブラジル』は飛び級している割合が高い」と書いてしまった生徒は資料読み取りを誤っていますので、必ず自分から講師に尋ねて正しく理解するよう努めてください。

感想文にも課題作文にも唯一の正解というものは存在しません。だからと言って自分の書きたいように書いていいわけではありません。課題で示された条件や作文のルールを守ることが必要です。

武道や芸術の世界に「守破離」という言葉がありますが、その言葉通り、まずは型を知り、型を守るところから始めてください。その上で自分らしさを表現して欲しいと考えます。今回気になったところは、「〜だけど」に代表される話し言葉の使用、主語と述語のねじれなどに加えて「皆さん、〜してください」という呼びかけです。スピーチ原稿ではありませんので、こういう表現は避けた方がいいです。また、あらずじばかりが長い感想文も見かけました。物語全体を紹介するのではなく、一つの場面や登場人物のセリフを切り取

って、そこから感じたり考えたりしたことを書いてみては如何でしょうか。ぜひ、返却される自分の感想文や作文を見直してみてください。

前置きがとても長くなりましたが、優秀作品の紹介に入ります。まず、小学生の金賞受賞作品です。「赤毛証明」を読んだ感想文でした。生まれつき赤毛の主人公が「普通」とは何かを探求する中で、自分に誇りをもって生きていこうとする話でしたが、自分自身の転校経験を振り返った上で、今後も自分らしさを大切にしながら周囲を応援できる人でもありたいという決意表明がなされていました。このように物語を「わたくしごと化」して捉えている点が評価されました。

次に中学生の金賞受賞作品です。たまたま二つの作品とも飛び級制度導入に前向きな立場で書かれていました。一つの作品は、日本人自身がまずは固定観念を脱却していくこと、さらに周囲のサポートを充実させていくことを優先した上で飛び級制度の導入を望んでいました。もう一つは「飛び級同年齢クラスの設置」という具体的なアイデアを披露し、「世界に遅れないように日本を引っ張って欲しい」と結んでいました。いずれも独自の視点があって力強さに溢れる作品だったと思います。

最後になりますが、当塾の全講師が中学生対象の課題作文に取り組んでいます。ぜひ、優秀作品や講師の精選作品に目を通してください。そして、真似ていきたいと思うところを探してください。「学ぶ」の語源は「真似ぶ」であると言われています。